

平成 24 年 度

ふれあい地域懇談会報告書

〈 鎌倉地域 — 東地区〉

1	日 時	平成24年7月30日（月） 午後2時～4時
2	場 所	鎌倉市役所 講堂
3	出 席 者	自治・町内会代表 23名
4	市側出席者	松尾市長、相川経営企画部長、小磯市民活動部長、石井環境部長、 土屋まちづくり景観部長、山田都市整備部長
5	テ ー マ	1 世界遺産登録に伴う諸問題について (1) 交通対策 (2) 観光対策 2 ごみの減量化・資源化への取り組みについて

平成 24 年 10 月 経営企画部 秘書広報課

— 第2部 過去2年間の懸案事項の報告—

過去の懸案事項については、今回のテーマとしても挙げられているため、第2部は割愛させていただき、第3部で併せて懇談することとしました。

— 第3部 今年度のテーマ—

＜小町二丁目自治会 小泉会長＞

鎌倉地域東地区では、『世界遺産登録に伴う諸問題に』と『ごみの減量化・資源化への取り組み』という、2つの大きなテーマについて考えていこうということになった。

なお、『世界遺産登録に伴う諸問題』には課題が8つあるので、順次、市長のほうからお話をいただいた後、議論をしてまいりたい。

テーマ1：『世界遺産登録に伴う諸問題について』

課題①：『先に行った「ワークショップー休日の鎌倉の交通問題」の結果をどう反映するか。幹線渋滞に伴い、周辺部の交通量がアップしてきている。』

＜松尾市長＞

交通渋滞に対する取り組みについては、昨年も課題となった案件であるので、併せてお答えする。

先般、交通渋滞問題に関してワークショップを開催し、地域の皆さんや市外の方にも積極的に参加していただいた。事業者や商店街の方々にも、それぞれの立場で意見を発してもらい、お互いの立場を理解しながら建設的な話ができたと思っている。

これを経て、今年度からは「鎌倉市交通計画検討委員会」という諮問機関を設置し、次に行政が採るべき施策について、このワークショップでいただいた意見を重く受け止めながら議論をしていただいている。

また、ハイランド地区の交通渋滞については、十二所の明石橋交差点で毎年、交通量調査を行っているが、平成8年度から23年度までの交通量が、ほぼ横ばいという結果が出ていることから、逆に言うと、県道金沢鎌倉線の交通渋滞は解消されていないと言えるので、こうしたデータを基に、今後検討を行っていきたい。

課題②：『鎌倉ハイランド地区の通学路の安全確保と、重大災害発生時の避難通路の確保について。』

<松尾市長>

通学中の子供達が、事故に巻き込まれるケースが多いことから、今、全市において通学路の確認作業を行っており、危険な箇所は、関係機関と調整のうえ、随時対応していきたいと思っているが、歩道やガードレールの設置等、ハード面の整備には様々な課題がある。そのため、カラー舗装化や車止めポールの設置など、歩行者の安全を第一に考えた施策を、今後より充実して行っていきたい。

また、災害時の避難通路についてだが、災害発生時には、緊急輸送路となる重要な路線は速やかに調査点検を行い、瓦礫の処理や簡易的な段差修正などを行ったうえで、救援ルートを確認することとなっている。そういった不慮の事態を想定して、皆様方には日頃から、複数の避難経路を設定しておくようお願いをしているところである。

<鎌倉ハイランド自治会 藤原会長>

総括的に考えると、県道金沢鎌倉線の中では、市外からの車のパーキングなどを考えるうえでも、将来的に明石橋交差点が、非常に重要なポイントになってくると思う。また、滑川沿いの道路は、災害時の避難通路になると思うが、ここは今でも、歩行者と車が非常に競合するラインなので、これも解決すべき対象だと考えている。

それともう一つ、通学中の事故についてだが、これはハイランドよりもむしろ、浄明寺の滑川沿いのほうが危険だと思う。信号のところで道路がカーブしていて、そのカーブしているところにバス停があるので、何か対策が必要ではないかと思っている。

<十二所町内会 大木会長>

十二所でも今、小学校低学年を対象に下校時の見守りをやっているが、先日、小さい子供がバスから降りて信号を渡ろうとしたところ、歩行者用信号が青に変わる寸前にバスが走り出したため、子供は慌てて戻ったというケースがあったので、バス会社に対して苦言を呈したことがあった。

それから以前、石渡市長さんの頃の話だが、明石橋からハイランドを抜けて大町のほうへ出る道が非常に混むので、ハイランドを抜けた信号のところで、JRの下にトンネルを通したらどうかという提案をしたことがある。その時は、それは市の範疇ではないということを言われたが、もっとそういう大きな観点からの発想をしたらどうか。

明石橋のところも、今、十二所公民館が川沿いにあるが、その川を暗渠にして、ガソリンスタンドの所で左折できるような形にすれば、ハイランドへ向かう渋滞も少しは解消するのではないか。

<松尾市長>

今、大木会長からお話いただいた件については、確かに鎌倉だけでできる話ではないが、

そうしたことも、逗子市と協議の中では提案させていただき、できる部分というのを是非検討していきたいと思う。

また、この県道金沢鎌倉線は、朝比奈インターチェンジから観光で来る方が必ず通る道なので、インターとの連携や調整というのも考えていく必要があると思っている。まだ具体的な案は無いが、パークアンドライドも少しずつ利用者が増加してきているので、これを朝比奈インターの部分で有効的に活用するような仕組みができれば、少しでも渋滞解消に寄与できるのではないかと思う。

まずはできる部分から取りかかっていたいということで、関係機関ともそういった話を少しずつ始めているところである。

課題③：『鎌倉地域の市道、特に朝比奈峠に至る道すがらの側溝部・歩道部の整備を推進すべし。』

<松尾市長>

県道金沢鎌倉線の道路管理者である神奈川県からは、「整備可能な箇所から順次、予算の範囲内で安全対策等の整備を実施してきている」という回答をいただいているが、未だ整備されていない箇所のほうが多いというのも事実である。本市としても、こうした歩道等の安全対策については、より一層県に対して要望していきたい。

ただ、県の所管ということとは別に、やはり世界遺産登録を目指すという中においては、こうしたインフラ整備というのがさらに重要になってくると思っている。直近の話で言えば、平泉などでは、世界遺産登録によってかなりの道路整備が進んだという事実もある。

やはり、国家プロジェクトとして、県と一緒に取り組む事業なので、こういうことをしっかりと進められなければ、地域の方々のご理解も得られないということを、私自身も県や国に訴えて、インフラ整備がより一層進むよう取り組んでいきたい。

なお、先日担当課が現地を調査したところ、ご要望の箇所は十二所のバス停前付近だと思われたが、神奈川県からは、この部分の具体的な整備計画は無いとの回答であったため、今後引き続き県に要望をしていきたい。

<十二所町内会 大木会長>

十二所バス停の所は、歩道が急に坂になっている所があったので、県のほうに話して改善することになり、工事の予定も決まっている。

私が申し上げたかったのは、鎌倉霊園入口から十二所神社までの歩道の脇にある側溝が、ほとんど埋まっているということであった。このため、大水が出ると一輪車に5台分ぐらいのごみが、ちょうど私の家の前あたりで山になってしまう。

それともう一点、十二所神社前から朝比奈の旧道に入っていくと太刀洗川があるが、川の反対側の側溝が全然整備されていないため、水が出ると道路を横断してしまい、せっかく道路を整備してもすぐに破壊されてしまう。

さらに、川の上流は護岸が整備されていないので、山側から水が出ると川の側面を崩してしまふ。確かに、景観の面からはあまり整備しないほうがいいとも思うが、もう少し水の流れなどを整えるような形で検討すべきではないか。

<松尾市長>

県道の側溝については、神奈川県にしっかりと伝えておく。

また、旧道の水が出る部分については、状況がきちんと把握できていないので、現場を確認したうえで改善方法を検討していきたい。

《後日対応 — 道路課》

鎌倉霊園入口から十二所神社までの側溝については、平成24年9月19日に、県に整備の要望を行った。

また、大刀洗川沿いの側溝及び上流部の護岸については、特に未舗装区間が史跡指定されていることから、新たに側溝整備等を行うことは好ましいものではないと考えているが流水対策等のため、現存する柵及びその周辺の改善について検討したうえで対応していく。

<横町町内会 小田切会長>

先程、市長がインフラ整備ということをおっしゃたが、私は側溝部ではなく、道路本体の整備について言いたいことが一つある。

私共の町内で、ある場所にガス管・水道管・電気マスなどが3、4m四方に5・6個集中していて、しかもそのマスが2、3メートル下にあるという珍しい場所がある。藤沢土木事務所等にもお邪魔して、既に一部の工事は手が付けられているので、市役所の方も十分ご存じだと思うが、特に夜静かな時に、大型車がスピードを出して通ると、その振動がすごく、地震が来ているようで周辺の方が寝られないらしい。

観光客も大事だが、住んでいる方はもっと大事だと思うので、こういった場所のインフラ整備を、世界遺産登録をネタにしながら急いで進めていただきたいと思う。

課題④：『世界遺産登録は市民の関心が薄く、商連・自治連でも話題にならないので、鎌倉市の中心部の街頭にアピールするPRの看板・標識などを考慮されたい。』

<松尾市長>

世界遺産登録に向けた広報啓発活動については、「世界遺産登録推進協議会」の皆さんを中心に、積極的に活動を進めていただいている。

今年の1月に「武家の古都・鎌倉」の推薦書がユネスコに提出され、本年度は登録に向けてより積極的にPR活動を行っていくという中で、JRと協力した横断幕の掲示や、江ノ電と協力した「鎌倉世界遺産登録応援号」の走行といった取り組みを行う他、今後は市

の公用車にも、登録推進に関する掲示を進めて行く予定となっている。

また、公共施設や市内のイベント等においても、PR活動やパネル展示を行わせていただき、世界遺産のある街としての景観に配慮しながら、こうした広報活動にも力を入れているところである。

さらに、今年の2月には、庁内に「世界遺産のあるまちづくり推進検討委員会」を立ち上げ、各部局がそれぞれ個別に進行管理をしている様々な事業において、市民の皆さんから課題だと言われていることを市全体の課題と捉え、関係各課と連携する、いわば横串を差すような仕組みを作り、その課題解決にしっかりと取り組めるようにしている。

まだまだ、目に見えない部分が多いというご指摘もあるが、ひとつひとつ着実に、そしてスピード感を持って取り組みを進めていきたいと思っているので、皆様方より一層のご理解とご協力をいただきたい。

＜八幡宮前振興会 都筑氏＞

世界遺産登録されるのは結構だが、少なくとも鎌倉の中心街の一角にある私共の町内を見る限りでは、世界遺産登録は何がどうなっているのかそれらしい模様は全くなく、旧態依然とした交通渋滞が続き、水が出れば出たままである。さらにごみについては、収集日を間違えたものなどが置いていかれて、朝早くから臭気が漂ってくるので、観光地だから早朝清掃をお願いしたいということをずっと要望している。

こんな街が世界遺産になるのかと思うと、心寒い気がするし、このように街の生活道路などが完備してない状況では、看板やのぼり旗を立てても芳しくないのではないかと思うが、いつまで経っても今のままである。「世界遺産登録推進協議会」には、私も一員として加わっているが、この発言をしてから1年、2年と経っても昔と全く変わっていない。そのあたりどのように施策を講じているのか、または講じていくのか、その点が不明である。

＜松尾市長＞

行政としても、いろいろと知恵を出して取り組みたいと思っているが、逆に皆さんからもこうしたらどうかということ、どんどん意見として出していただきたい。実はこの世界遺産登録に向けては、実際はそれほど予算も使っていないという事実がある。だからもっとPRにお金を使ったらどうかという意見ももちろんあるが、限られた予算の中で知恵を出して、何とかやっていきたいというところもある。

それから、世界遺産登録されると、今より不便になると思われている節もあるが、登録されても、法律や条例は今と変わらないので、何か大きな、悪い影響が出る訳でもない。そういった点で、少し誤解を受けている部分もあるように思っているので、市としても今後より一層、正しい情報をきちんと皆さんに伝えていくよう心がけたい。

やはり、世界遺産登録をするこの契機によって、よりよい街になるのだということが、ひとつひとつ見えてくるのが大事だと思っている。今後、いろいろと改善点が出てくるだろうが、それらを一つ一つしっかりと進めて行くことが大事だと思っている。

課題⑤：『鎌倉駅から八幡宮に至る県道・市道には公衆トイレがないが、有料駐車場にトイレの設置はできないか？ また補助の措置は？』

<松尾市長>

こちらも以前から課題となっている案件だが、その時には、コインパーキングを設置する場合に、公衆トイレを併設してもらおうという、協力制度について説明をさせていただいた。その後、相談は数件あったが、今のところ実現には至っていない。

また、ビルの建て替え等の際に、観光客等にトイレを開放してもらおうという要請もしており、こちらは由比ガ浜で1か所、協力いただける施設を確保した。これについては、官民の協力の中で公衆トイレができたという、非常にいい例だと思っている。

しかし、ご指摘いただいている、駅から八幡宮のエリアにおける具体的な解決にはなっていないので、今度は、商店や事業者の皆様に対して、トイレを開放してもらおう代わりに、市が補助金を出すという制度を検討しており、平成25年度からのスタートを目指している。商店の中には、観光客のトイレ利用はお断りという方もいるので、こうした補助制度によって、貸す方も借りる方も気持ちよく使えるような形になればと期待している。

<八幡宮前振興会 都筑氏>

私としては、言って言いっ放し、聞いて聞きっ放し、いつもどおりどうなっているのかさっぱりわからないというのが感想である。大いに議論するのは結構だが、具体性が何も伝わってこない。

今回あえてこのテーマを挙げたのは、何年経っても毎年同じことばかり言っていて、この次はこうなりそうだ、あるいはこうするつもりだということが、一切私たちに伝わってこなくて、はなはだ不満だからである。

<小町二丁目自治会 小泉会長>

今の、商店がトイレを開放した場合に補助金を出すという制度は、来年度からという話だが、それは要綱でやるのか、来年のいつ頃から始まるのか、今どのあたりまで具体的に進んでいるのか。

<小磯市民活動部長>

今、要綱を作る準備をしているが、それができ次第、できれば今年度中にご協力いただける店を募集して、来年度早々にはその協力店制度を実施したいというスケジュールで考えている。今のところまだ目星はついていないが、これから積極的に動いて、できるだけ多くの店舗にご協力をいただくような努力をしていきたい。

<八幡宮前振興会 都筑氏>

おっしゃることは大いに結構だが、実際の店の話では、「うちは嫌だ」、「汚されてそのま

まになる」、「トイレトペーパーを持って行かれる」ということで、いくら良心的にやろうとしても、これではうまくないから断らざるを得ない。

お店のトイレを借りるのもいいが、今、あのあたりには、駐車場がいっぱいあるので、あの駐車場の一面に1台か2台ぐらいのスペースを空けて、そこに補助金を出してトイレを造り、経費が伴うなら有料で貸すということができないものか。これも何年か前に提案したが、なにも進んでいないようだ。

<雪ノ下岩谷堂町内会 梶田会長>

要は、現状ではそれだけの土地がないということなのだろうが、鎌倉警察署が移転するという話を聞いているので、その移った後の土地を利用することを考えてはどうか。

<松尾市長>

警察署が移転した後は、県と民間の方の土地だが、そういう機会を捉えて、整備ができる可能性がある所には、積極的に働きかけをしていきたい。

<小町二丁目自治会 小泉会長>

皆で知恵を出し合えば、できるできないは別として、意外といいアイデアが出るかもしれない。お互いにアイデアを出し合って、それを一つ一つ、きちんと検討して答えを出していくべきだろう。警察署が移転した後の土地についても、話をして交渉してみようとか、そういうアクションを起こさないとこの問題は解決できない。

市が設置するかどうかは、お金の問題も含めて、いろいろなやり方があると思うが、やはり周りで生活している人も困るので、是非とも積極的に検討願いたい。

<松尾市長>

こうして皆様からいただく情報も、非常に大事だと思っている。整備を要する部分については、そういった情報もいただきながら、しっかりと検討をしていきたい。

課題⑥：『緊急事態発生の公共の広報車はあつという間に走り去ってしまうので、もっときめの細かい広報を工夫されたい。』

<松尾市長>

本市では、緊急時の情報提供は防災無線を基本とし、その他は補完対策という位置付けで、メール配信や広報車、ホームページ、FMかまぐららの割り込み、ケーブルテレビのテロップ、消防ダイヤルなどを行っているが、やはりそれぞれ短所・長所があるので、皆さんにとって利用しやすいもの、あるいはその地域に合ったものを活用していただきたい。

また、今年度は特に、防災無線が本当に聞こえないという所には、是非、防災ラジオをご活用いただきたいと思っている。ラジオであれば屋内に置くため、大雨が降っていても

よく聞こえるという評判もある。

そういった様々なツールをうまく活用してもらいながら、最終的にはやはりその地域の方々が、それらのツールを使えない方々に対して、地域の力でカバーしてもらおうという部分が出てきてしまうが、市としても情報伝達については、今後も様々な手法をできる限り考えていきたいと思っている。

<小町二丁目自治会 小泉会長>

緊急時の広報車も防災無線もそうだが、要するに情報がきちんと伝達されないと困るので、何らかの手を打ってほしいということであろう。メール等いろいろな方法でやっているが、使わない人もいるので、とにかく正確な情報をいち早く届ける、そしてそれによって何をするかという判断を、各自ができるようにしなければいけない。

私の所もそうだが、防災無線は非常に聞こえにくいのが、駅の放送は良く聞こえるという所もある。出力の問題や指向性の問題などいろいろあると思うが、その理由も一度研究してもらいたいのではないかと思う。

<葛西ヶ谷保郷会自治会 岸会長>

防災行政無線の送信所は、たぶん鎌倉消防署の上にあるのだろうが、あれが壊れたら全部一発で終わりになってしまう。そのバックアップが何系統かになっているのか。

それと、流す情報の種類によって、例えば緊急性の高いものは2、3回繰り返すとか、まずサイレンを鳴らしてから話すとか、そういったルールはできているのか。

<松尾市長>

確かに今は、由比ガ浜の鎌倉消防署から送信しており、市役所からも操作できるようにはなっているが、由比ガ浜は津波の被害が考えられるということで、今、発信施設を大船消防署に移すことを計画している。

防災無線の放送における音や長さについては、決められている部分があるので、それに基づいて流しているが、大津波警報などの時に、緊張感のない放送になったりしないよう、そういった本当に緊急の場合には、確実に伝えられるような工夫というのも、今後、更に検討していきたい。

<葛西ヶ谷保郷会 岸会長>

市役所から操作できると言っても、おおもとの設備が壊れてしまったら役に立たない。こういうものは原子力の発電機と同じで、それぞれ独立して、2系統3系統持っていないといけない。大船に移して津波の恐れはないから大丈夫だということではない。

<御成町末広自治会 奴田会長>

うちの自治会は市役所の近くだが、それでも防災無線が聞こえないと言う人がいる。以前、説明に来てくれた市の話では、「ボリュームを小さくしてほしい」「設置場所を増やさ

れたらうるさい」といった意見があるということだったが、そういうクレームに対して、市のほうは神経質になりすぎていると思う。

一部の、ごく一握りの人がうるさいと言うだけであって、むしろ聞こえにくいという事のほうの方が大事だと思うし、東日本大震災以降、考え方が変わってきている部分もあると思うので、スピーカーの設置場所やボリュームについても、再度検討してもらえないか。

<松尾市長>

会長のおっしゃったことは、かなり今の行政対応の本質をついている部分だと思う。防災無線の問題に関わらず、やはり大きな声で反対をする一部の方への対処には、非常に苦慮しており、そういうバランスの中で行政も進めてきている。

いいことやろうとしている訳なので、一部の反対に苦勞することはあっても、正しいことはやるんだという姿勢で、進んでいく覚悟は必要だと感じている。この防災無線についても、音量を上げずにその向きを変えるなど、いろいろ工夫をしながら、できる限り前向きに対応していきたい。

<小町二丁目自治会 小泉会長>

これも以前からの課題であるが、要は正しい情報が早く伝わるということが、市民にとって一番大事なことである。いろいろな苦情があるにしても、やはり災害があった時にどうするのか、津波が来るのか来ないのか、そういうことがわからないと市民は戸惑ってしまうので、きちんと情報提供ができるようお願いしたい。

課題⑦：『小町通りに面した貸店舗が、公道へはみ出して商売をしているうえ、串や楊枝や瓶を持たせるため、ごみを捨てられてしまう。こういった実態を徹底的に直すにはどうしたらよいか?』

<松尾市長>

小町通りでは、違反屋外広告物の除却協力員の方々にもお願いをしながら、こうした違反広告を撤去するキャンペーンを繰り返し行っている。

今後は、商業振興の観点からも、引き続きこのキャンペーンを定期的に行うことで、屋外広告物制度の普及啓発も同時に図り、さらには、町の美観を維持していくことが、商店街を始めとした鎌倉全体のイメージアップに繋がるということを共通認識としていけるように、意識啓発に取り組んでいきたい。

<雪ノ下岩谷堂町内会 梶田会長>

そのキャンペーンで月に1、2度見回るようになったが、回って来る時には既に、そういったお店は皆前もって片付けてしまい、パトロールが終わるとまた道路に並べるといって繰り返している。営利を目的として公道を利用するのは完全に法律違反だから、そこ

はもっと重く行政指導するような形で、あるいは、さらに進めて条例を作って罰金を取るなど、そのぐらいまで厳しく対応すべきだと思う。

小町通りでは、市外に住んでいる人がお店を借りて商売をしているケースが多いらしいが、あそこの店もやっているからうちもいいたろう、というような感覚の人達が集まっているようで、倫理観が欠如しているように思える。これは、行政指導という形で対応しないと、個々に注意して直させるというのは、なかなか難しいと思う。

鎌倉市以外でも、全国には同じような課題を持つ所があると思うので、そういった例も活かして、行政にプラスになるようにやっていただけるといいと思う。

＜小町二丁目自治会 小泉会長＞

人が多いとか、マナーの悪い観光客や、それを助長する物品販売が多いということがあると、地元の方は小町通りを歩かなくなるし、せっかく世界遺産に登録されても、小町通りのイメージが悪くなる恐れがある。

だからこれは、役所だけではなく、世界遺産登録する鎌倉らしい商店街にしようということを、商店街とも連携していろいろ話をしながら、取り組んでもらいたい。

＜松尾市長＞

大船の仲通りも、こうした違反の状況が日常化しており、地域の商店街の方から要望があったことから、警察と協議をする中で、商店・警察・行政で連携をして、今年かなり抜本的な指導を行った。

この取り組みによって、ある程度改善ができたと思っているが、やはり、みんなが守ることが非常に重要なので、小町通りについても、警察や地元商店街と協議をしながら、抜本的な解決ができるようにしっかりと取り組んでいきたい。

＜御成町末広自治会 奴田会長＞

鎌倉市商店街連合会の会長という立場だけでなく、まち美化推進協議会の一員としてもお話しするが、コンビニで買ったお弁当の残飯を、近くのベンチに置きっ放しにして帰る人が多い。

私は日曜日の朝、その周辺のごみ拾いをしているが、タバコの吸い殻やペットボトル、コンビニの弁当の残飯や袋などが落ちているので、そういう店に対して、ごみを自分の店で処理するように、注意や指導をすることができればいいと思う。

タバコの吸い殻も、今は禁煙条例があるので、条例違反だからということで近くの交番に言ったが、条例と警察の権限は違うから、注意できませんという話をされた。歩道に禁煙と書いてある、そのそばでタバコを吸っているのに、何で注意できないのか。お巡りさんが一言注意してくれれば、自分の吸い殻ぐらい自分で処理すると思う。

だからやはり、商店街の立場とかではなくて、いろいろな団体や機関が一緒になって、そういうことに立ち向かって行けば、世界遺産登録された後も街がきれいになると思う。

＜松尾市長＞

警察の方が、どういうことでそう言われたのかわからないが、条例違反については、きちんと警察とも協議をしていることであり、警察が注意をするのは何ら問題ないと思っているので、そういった協力もあらためてお願いしていきたい。

また、そのコンビニのごみの件も、状況は十分認識しているし、今、こうしてお話も聞いたので、行政のほうから店に、そういった状況を説明したうえで、強制はできないにしても、定期的な清掃等ができないものか、お願いしていきたい。

《後日対応 — 環境保全課》

当該コンビニに対して、同店で購入したと思われるごみの放置について指摘があった旨を伝え、ごみ拾い及び清掃についての配慮をお願いしたところ、「これまでも目に付けば片付けているが、これからも清掃などの対応をしていきたい。」との回答をいただいた。

＜小町二丁目自治会 小泉会長＞

この問題も、それぞれの機関がそれぞれで対応するのではなく、できるところはなるべく一緒にやるように協議をしたほうがいい。例えば今の小町通りにしても、観光、道路管理者、警察、商業振興など、そういったところが一体となって、お互いに知恵を出し合ってやってほしい。

周りに住んでいる人が一番迷惑をしているので、それを何とかしてもらわないと困るといのがこの課題だろうと思う。

＜八幡宮前振興会 都筑氏＞

何とかしてと言っても、何とかできないのが実情であろう。私も目立った店に聞いてみたが、「私の所では遠くからは看板が見えないから、違反を承知で看板を出している。これがダメだとしたら、私の店をどうしてくれるのか」という話で、結局見回りが来る時だけ一時的に引っ込めておき、行ったらまた出すというイタチごっこである。

ただ、実際に商売に関係しているとなると、なるほどと思うところもあるので、そのジレンマをどうやって解決したらいいかは、私にはわからない。

＜小町二丁目自治会 小泉会長＞

生活している人と商売している人、それぞれの見解があるが、地元の人はそのほど違反しておらず、よそから来た業者がみんなやっているというのは、見ていてよくわかる。

商店街という形でやれるのかやれないのか、関係機関、関係者ともよく話をしながら進めてもらいたい。そうしないと、世界遺産登録をしていくら人が来ても、なんだかゴチャゴチャした街だという印象を与えてしまうので、ひとつよろしくお願ひしたい。

課題⑧：『「フクちゃん号」は常に空車であるが、利用率の調査が必要では？また、県営駐車場の年間利用率は？』

<松尾市長>

確かに「フクちゃん号」の利用者が大変少ないということは認識している。由比ガ浜のパークアンドライドは、「フクちゃん号」を使わなくても移動することが可能なので、それも理由としてはあるが、実際にこのパークアンドライドの利用者は、年間3,000台ぐらいということから、やはりこれをもっと増やしていかないことには、交通渋滞の抜本的な解消には繋がっていかないと思っている。

実際に、こうした運行状況等も、またパークアンドライド自体も、今、行政とバス事業者とでいろいろ協議をしながら行っているところなので、その中で何か改善できる部分とかが出てくるのではないかと考えている。

また、県営の由比ガ浜地下駐車場の年間利用については、平成23年度は普通車が56,678台、大型車が1,454台、合計で58,132台の利用があったと、神奈川県に確認をしている。

<巨福呂坂町内会 金子会長>

私は、この「フクちゃん号」が入って来る裏八幡のそばに住んでいるので、時々見るのだが、たいてい空である。これは何年前からずっと空なのか、何年前から運行してきたのか、どこが費用を出しているかわからないが、財政難と言っている中で、何か無駄な事をしているような気がする。やるならもっとうまくPRをして、渋滞の緩和に力を入れてくれた方がよいと思っている。

<松尾市長>

財政的な負担で言うと、由比ガ浜の県営駐車場は神奈川県、「フクちゃん号」の運行はバス事業者なので、市の財政的な負担というのはないが、再検討すべきというのは本当にご指摘のとおりである。

以前は、パークアンドライドを観光雑誌に載せるために、市から広報費を出していた時もあったが、それも直接的な効果が少ないということで、今はそういったPRにかかる直接的な経費は出していない。ただ、渋滞緩和のためには、やはり利用していただくことが一番大事だとは思っているので、そのあたりもこの財政の中で、できることとできないことを検討しながら、今後またバス事業者や県とも協議を進めていきたい。

<巨福呂坂町内会 金子会長>

いつも空で走っているのに、バス会社はやめるとは言わないのか。普通なら儲からないものはやめて手を引くと思うが、そういうことにならないのか。

<土屋まちづくり景観部長>

確かに、利用率が非常に低いというのは私も重々承知しているので、その活用について

は今後、事業者と検討しなければいけないと思っている。

ただ、ここで、「もういいですよ」と言ってしまえば、事業者も「ああそうですか」と言ってやめてしまうことになり、今後また復活させるのも大変になると思う。「環境手形」や「パークアンドライド」をしっかりとやっていくうえで有用なこともあるので、事業者とはもっと取り組みについて協議を進めていきたいと考えている。

<山王台自治会 岩田会長>

私も交通問題のワークショップに出たが、そこでは多くの市民から、車の乗り入れを規制する、抜本的な対策を取ってもらいたいという声がかなり出ていた。この『パークアンドライド』というのは非常にいい試みだと思うが、今、由比ガ浜でやっているのは、その利用率が非常に低いということである。

これを、由比ガ浜だけではなくて、例えば朝比奈のほうから金沢街道で入ってくる車と、それと小袋谷、鎌倉は結局、この3方からしか入って来られないので、そこで観光客の車を市内に入れさせないようにして、後は全部パークアンドライドで、公共交通を使ってもらうというような抜本的な対策を取らないと、もうどうにもならないのではないかと。

先日も、神奈中バスの運転手さんに聞いたら、鎌倉はもうパークアンドライドでやってもらいたいと、もう大型バスを市内に入れること自体が大変な苦労だと言っていた。

世界遺産登録で、観光客はますます増えると思うが、我々生活している人間も移動に困るような状況が、もう既に発生しているので、登録を機に、駐車場の整備や「フクちゃん号」の活用について、是非、市長や市のトップの英断で、積極的に取り組んでももらいたい。

<松尾市長>

車の流入規制は、やはり行っていかなければいけないとっていて、今、『ロードプライシング』の検討を進めているが、それを仕組みとしてどのように入れ込んでいくかということになると、これはすぐにできるものではないので、先程のワークショップ等を経て、そして協議会を作らせていただいた中で、しっかりと議論をしている段階である。

その中で、より良い形というものを見出して、そして実行に移していきたいと思っているので、その間もまた、いろいろと皆様方からもご意見を伺いながら進めていきたい。

テーマ2：『ごみの減量化・資源化への取り組みについて』

<松尾市長>

昨年6月に策定した「鎌倉市第2次一般廃棄物処理基本計画—ごみ処理基本計画」の中で、ごみの減量施策の一つとして、家庭系ごみの有料化と戸別収集の実施を位置付けた。

戸別収集は、各家庭の前にごみを出すことになるので、その排出者責任が明確になるということと、高齢者や子育て世帯への負担が軽減されるというメリットがある。また、この戸別収集と有料化によって、一人一人がごみを出すということについて、より一層意識

を高めていただける、そうした契機になるとも思っている。すでに戸別収集と有料化を実施している藤沢市では、これによってごみの減量化が進んでいるというデータがあることから、本市においても、この戸別収集と有料化を同時期に実施していく予定である。

スケジュールとしては、まず、今年の10月から七里ガ浜と山ノ内、鎌倉山の各地区で、戸別収集のモデル事業をスタートするというので、今、各地元に説明会に入っている段階である。そして、実際にこのモデル事業を進めて行く中で、課題をしっかりと検証し、全体の実施に繋げていきたいと考えている。

また、家庭ごみの有料化については、平成26年4月からの実施を目指している。どの程度の金額かという点を始め、実施時期や戸別収集の品目等については、今、「鎌倉市廃棄物減量化及び資源化推進審議会」という審議会の中で、議論をさせていただいているので、その議論を経たうえで、これらの実施方法について、具体的に決定をしていきたい。

<小町上町明光自治会 永野会長>

この問題については、昨年急に聞いて驚いた。うちの地区は、ようやく町内会ができて、ごみステーションもようやく整い、カラスもいなくなったので少し良くなったかなと思った時に、この戸別収集という話が出たので、ちょっとその問題が気になった。

それと、排出者責任という話があったが、実際には通行人や観光客が、ステーションにごみをポイ捨てしていくことがあるので、結局、責任者の追及はできないのではないか。こういった問題も、実際のモデル実施でクリアにして、しっかりした形で方向を決めていただきたい。

ただ、うちの町内会でようやくごみステーションがうまく機能してきているというように、地区によってそれぞれ事情があると思うので、戸別収集とステーションを並行でやっていただけると、もっとありがたいと思う。

<横町町内会 小田切会長>

私共のエリアでは、カラス対策でごみをカバーするようなネットを置くスペースが全くない。表は県道金沢鎌倉線、横は辻説法通りで土地が全然無く、あったとしても、そこにごみを置いてもらったら困るという話をされるので、このごみ問題に関しては、なかなかまとまりがつかずに困っている。

<小町二丁目自治会 小泉会長>

ごみの問題は、意外にあまり知られてない。来年10月から全市で戸別収集の実施を予定しているということは、あと1年ちょっとしかない。例えば、やり方にもいろいろなケースがあるのだと思うが、もしやるのならば、そういうことに対するPRをかなり前からきちんとやらないと徹底しない。ごみの問題は、どの町内もみんな困っているのに、そのあたりのアナウンスがなんとなく弱いような気がしている。

戸別収集もそうだが、焼却場やバイオマスはどうなっているのかといった議論も聞こえてきたりする中で、一体、市長のやろうとしていることはどこなのかということが、スト

ンと落ちてこない。苦情処理の窓口になって困るのは、それぞれの自治町内会を預かっている皆さん方なので、先程の世界遺産もそうだが、やはり市長からもう少し「こういうことをしたい」というアナウンスがないと、市民としても「ああそうか、市長はこういう考え方で、こうしようとしているのか」ということがわからない。

このごみの問題も、減量化や美化の取り組みを一生懸命やっているところは見ているが、戸別収集については「こうなるんです」という話があまり聞こえてこないで、みんな心配をしている。自治会も広い所はいいが、うちのように道路が狭くて苦勞している所はどうするのか、といった問題もあるので、そのあたり、もう少し熱意が聞こえてこない、なかなか協力も得られないのではないか。

＜山王台自治会 森田氏＞

戸別収集に関しては、藤沢市を参考にしているようだが、藤沢市と鎌倉市の比較については検討しているのか。例えば人口や世帯では、鎌倉は今7万3千世帯ぐらいで、人口が17万3千人ぐらい。それに対して藤沢は17万世帯で、人口も42、3万ぐらいあるので、鎌倉より2.3倍から2.4倍ぐらい多い。ということは、それだけ排出量も相当違う訳である。それなのに藤沢がやっているからといって、鎌倉も同じように当てはめていいのか、その点を検討したのかどうか聞きたい。

それから、ごみの分別だが、鎌倉市は特に分別の細分化が進んでいるということで、評価はされているのだろうが、それゆえに、毎日ごみの収集車が市内を走り回っている。これが、はたして本当にごみの収集にとって一番効率的なのか、かえって非経済的ではないか、ということも考える必要があるのではないか。もっと分別を集約して車の台数を減らすのも、一つの考え方ではないかという気がする。

《後日対応 — 資源循環課》

藤沢市と鎌倉市では、総人口及びごみの総排出量が大きく異なるため、計画時には、市民1人1日当たりのごみ排出量と焼却量について、藤沢市が戸別収集・有料化を実施する前の平成18年度と、実施後の平成22年度の数値を比較している。

その結果、藤沢市では戸別収集・有料化実施後に、排出量・焼却量がいずれも減少しているという結果を得ている。

藤沢市と鎌倉市の1人1日当たりのごみ排出量と焼却量（単位：g/人日）

	家庭系ごみ排出量		焼却量	
	平成18年度	平成22年度	平成18年度	平成22年度
藤沢市	805	674	710	587
鎌倉市	849	768	657	622

また、藤沢市の燃やすごみの組成調査結果によれば、戸別収集・有料化の実施前に比べ、実施後は資源物の混入割合も減少していたことから、本市でも同様の効果があるものと考えている。

＜雪ノ下岩谷堂町内会 梶田会長＞

私も廃棄物減量化等推進員をやっているが、植木やプラスチックも分別するようになってから、燃やすごみの量は間違いなく減っている。半分まではいかないにしても、おそらく6割ぐらいにまではなっている。資源物の再生工場では、皆さん一生懸命やっているのがすごくわかるので、あとは生ごみを減らすことをずっと考えていた。

生ごみは含水比が多いから重いので、それを低くするため、山崎浄化センターの隣に脱水工場を造ったらどうか。脱水した水分は下水で再生させ、残ったごみだけを燃やすことで、重量は相当減量化できるのではないかな。

＜松尾市長＞

本市のごみの焼却は、今、名越と今泉の2か所でやっているが、この2つが老朽化をしてきているため、今後のごみ処理は非常に重要な局面を迎えていた。その中で、神奈川県全体でやるエコループプロジェクトや、三浦半島での広域処理といった話が持ち上がっていたが、最終的に、鎌倉市と逗子市という枠組みだけが残り、しかも逗子では焼却をしないということになったので、結局また元に戻ってきてしまった。

そのため、この焼却炉の老朽化問題を根本的に解決しないと、将来にわたって安定的にごみ処理をしていくことができないので、やはりその原点に戻って考えていかなければというのが、まずこの問題の大前提だと思っている。

そういう中で、今泉については従前から、平成26年度末をもって焼却を停止するという地元との約束があるので、その後は、名越だけで焼却をするということで、何とか地元の方にご理解をいただいたところだが、その代り、30,000 tを超えないようにとのお願いをいただいている。そこで今回、名越の延命化の工事を行わせていただき、およそ10年間、名越でさらに焼却をさせていただくこととなった。

これはつまり、平成27年度以降、鎌倉市は30,000 tのごみを焼却する能力しか持たなくなるということなので、今、39,000 t燃やしているごみの、残り9,000 tをどうしていくかというのが問題となる。

従前はバイオマスという話があったが、これはまだ今の段階では、安定的な処理という面で非常に疑問があるため、やはり新たな焼却炉を造ることが、将来にわたっての責任だろうと私は思っている。その計画を進めている一方で、この先10年間は、9,000 tの燃やすごみを減らさなければいけないという課題があるので、市民や事業者の方に、とにかくごみを出さないようにというお願いをしているところである。

市民の方々にはこれまでも、随分と協力をしてきていただいているが、今後重要なのは事業系のごみだと思っている。事業系ごみは、実際にまだ分別が徹底されていないという現状があるので、そこの協力をいただければ、しっかりとごみの削減ができると考えている。今、市民の方々が「鎌倉のごみ減量を進める会」として立ち上がってくれて、各商店や事業者にも、市民の立場からごみの分別や減量をお願いしてくださっているのだから、こういう活動を皆さんにもご理解いただきたい。

また、家庭には生ごみ処理機の普及をさらに進めていくが、新たにこの7月から、非電動型であれば1割の負担、例えば1万円の物なら千円を市役所の窓口で支払えば、生ごみ処理機が買えるという制度を始めた。買った物は事業者が各家庭まで届けてくれるので、是非活用していただきたい。

<巨福呂坂町内会 金子会長>

その生ごみ処理機は、十件分まとめて買うことはできないのか。それができれば、町内まとめて買えるので、ずいぶん楽になる。

<松尾市長>

まとめ買いの件については、今後検討していきたい。

それから先程、ごみの収集車が多いという話があったが、分別すればするほどそういう現象も起こってくる。これは今後の課題ではあるが、例えば他市の事例では、大型のクリンステーションのようなものを公園に設けて、そこにビン・カン・ペットボトルなどを自分たちで持っていき、というような取り組みをしている自治体もある。こういったことも含め、回数を減らす工夫なども、今後は検討していきたい。

ごみ処理というのは、本当に市民の皆さんの協力なしでは継続していけないので、願わばかりで恐縮ではあるが、より環境への負荷が少ない、そしてより財政への負担が少ない形で、進めて行ければと思うので、今後ともご協力をお願いしたい。

《後日対応 — 資源循環課》

生ごみ処理機の助成制度は、非電動型生ごみ処理機の場合、助成できるのは1世帯2台までとなっているため、1人の方が3台以上まとめ買いするというのは、原則としてできない。

ただし、事前に購入を希望する方達が、それぞれ申込書を自筆で記入したうえで、代表の方が代金と共に、まとめて市役所に持参して、手続きを取っていただければ、まとめて購入することは可能である（ただし返品は不可）。

<扇ガ谷下町自治会 青木氏>

先程、観光客などがコンビニで買ったものを捨てていくという話があったが、自分で出したごみを持ち帰ってもらうというキャンペーンを張ることができないか。

私共の自治会は、ちょうど銭洗弁天に行く通り道に当たるので、観光客が道路にごみを捨てて行ってしまうことがある。私はそれを拾って分別しながら、一時的に自分の家で預かって、収集日に捨てているような状況である。

だから、コンビニで出たごみは、そのレジ袋に入れて持ち帰ってもらうとか、バス会社にも協力してもらって、観光バスの中でも、ごみの持ち帰りについてのPRを徹底してもらおう、といったキャンペーンをしてもらえたらいいと思う。

<松尾市長>

本市の場合は、今でも、ごみは持ち帰っていただくようにということでPRをしているが、今後は、より一層工夫をして、観光客の皆さんには、きちんとマナーを守っていただきたいということが伝わるように、力を入れて広報していきたい。

<小町二丁目自治会 小泉会長>

世界遺産の問題もごみの問題もそうだが、様々なケースにおいて、市から市民に対する、あるいは観光客に対する情報発信が、あまりうまくいってないのではないか。一生懸命やろうとしている、そのことがきちんと伝わらないと、お互い協力してやろうという話に繋がっていかないので、そのところはしっかりとやっていただきたい。